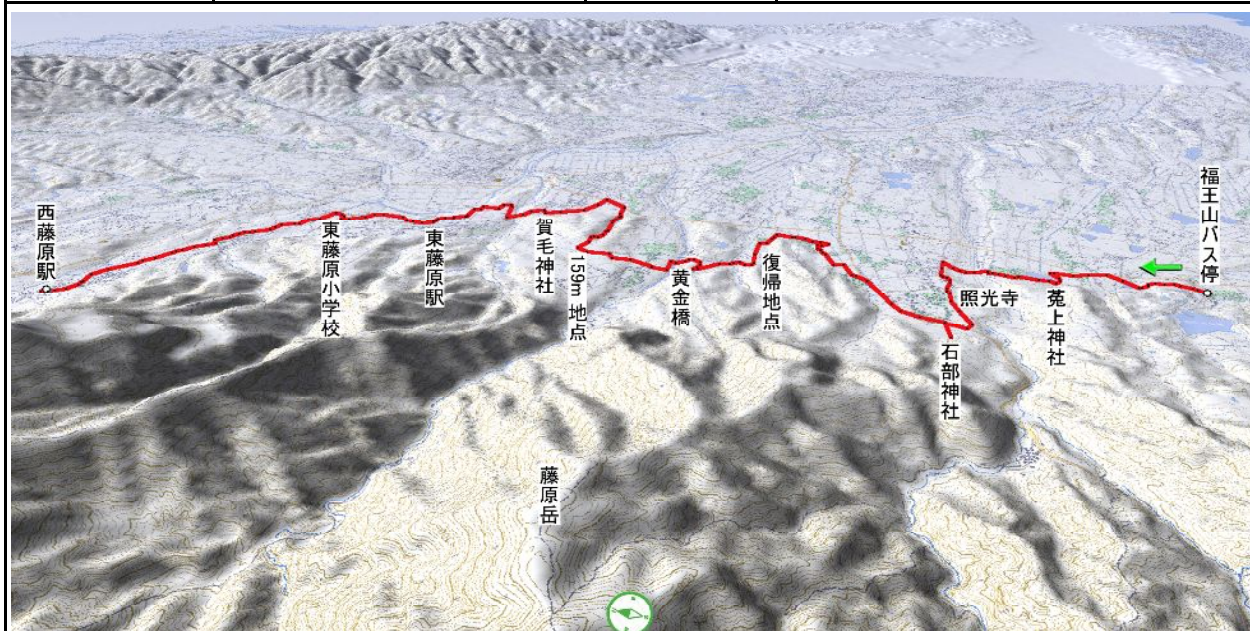


健康登山68:自然歩道37 (宇賀溪～西藤原)

コース	福王山バス停 1.6km/24 4.5km/67 藤原駅 1.2km/17	菟上神社 1.5km/24 黄金橋 1.2km/19 東藤原小学校 2.9km/43	159m地点 2.1km/31 西藤原駅 0.2km/3	照光寺 1.2km/20 賀毛神社 2.1km/33 石部神社	東 民宿
水平距離	18.5km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離					
累計高低差	登り350m、下り307m				
標準歩行時間	4 : 41				
実績歩行時間	4 : 46				



山行報告

山行日 2011・10・06 (木) 天候 晴れ 参加者 3名

行動 京都駅7:37 四日市駅9:50 福王山バス停11:00 菟上神社11:32 照光寺12:16～
12:45 石部神社13:01 復帰地点13:58 黄金橋14:20 賀毛神社15:10 東藤原駅
15:37 東藤原小学校15:52 西藤原駅16:34 民宿モリカワ屋16:46 (泊)

記録

未明まで雨が残るが、その後は晴れの予報どおり四日市駅に着いたときは秋晴れだった。四日市駅始発の福王山行きバスに乗り、市街地を抜けると前方に雄大な鈴鹿の山々がくっきりと見えた。終点の福王山バス停が今回の出発点である。

前回は宇賀溪の石樽南で自然歩道と別れ、最短距離で福王山へ戻ったが、今回は途中にある社寺を訪ねながら石樽南へ向った。菟上神社に立ち寄った後、照光寺で昼食をさせてもらった。午後はいよいよ自然歩道に戻り、石部神社に参拝して1kmほど国道421を東進した後、山裾道を北上した。自然歩道の要所にはいなべ市特製の緑色道標が完備していて安心して歩けた。

ところが、途中で道標を見落として東へ振り過ぎ国道306へ出てしまった。直ぐ修正したが道標は東から西へ向う人を想定してつくられていて、逆方向を歩く場合は見落としやすく要注意である。自然歩道は車道避け、地図にない農道などを歩くため道標に頼らざるを得ない。

青川に架かる黄金橋で藤原岳を背景にして記念撮影をした。今回コースは藤原岳の東山麓を北上し、北へ回り込んだ三岐鉄道の終点西藤原駅までである。終日、藤原岳を見ながら歩くのだが、藤原岳の東面は大規模な石灰の採掘によって山容が変わってしまっている。

黄金橋から林道を北へ進んだ159m地点の十字路で道標が東を指していた。近道は北だが、ここは道標に従って賀毛神社前を通って東藤原駅へ向った。自然歩道は直線的な車道を歩かず田園道を案内しているのでその通りに歩いた。途中で員弁川の木橋が破損しているため迂回路に指定されている車道へ戻った。その後は東藤原小学校まで車道を歩いた。

藤原町下野尻からは集落内の道を通る本来の自然歩道を歩いて目的地の西藤原駅に着いた。民宿モリカワ屋さんは駅の近くにあった。藤原岳登山口前で前夜泊に利用できる。

自然歩道 (福王山～宇賀溪口～西藤原)



鈴鹿山系北部
右が藤原岳
10:41



出発点
福王山バス停
11:00



菟上神社
11:30



照光寺
12:42



石部神社
13:01



いなべ市の
自然歩道道標
13:58



黄金橋にて
背景は藤原岳
14:16



茶畑道を歩く
14:30



農道を歩く
正面は採掘地
15:27



三岐鉄道
西藤原駅
16:34

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：宇賀溪口～西藤原）

参考資料 ホームページ他より

石部神社：祭神：天日方奇方命（妹は神武天皇の皇后/媛蹈鞰五十鈴姫命）
大国主命、天兒屋根命。

神社参道の杉並木は平成9年いなべ市指定天然記念物です。
（大安町石樽南、東海自然歩道西200m傍）

石加神社：祭神；天照皇大神、須佐之男命、菅原道真。
『石加』は「石処(いしか)」の意であると考えられ、「か」は「在り処(か)」「住みか」などの所、場所などの意を表す「か」であり、したがって「石加」は「石処(いしか)」で「石の在る所」の意があると考えられています。
この辺り(藤原岳山腹一帯)は石灰石の産地で石工も多く「石神信仰」が深く、石樽村の石部神社、石加神社(石樽北、東海自然歩道東400m)など、共にこの地方氏族の崇祀したものと考えられています。

石神社：仁和2年(886)創立と伝えられています。
祭神：品陀和気命(応神天皇)、神功皇后。
合祀：素盞鳴尊、底筒命、中筒命、上筒命、天兒屋根命、豊受姫命、伊邪岐命、猿田彦命、火産霊命、大山祇神。(10柱)
（藤原町石川集落の字垣内。東海自然歩道前川橋を渡って250m西、）
他に「式内社石神社」があります。場所は北東3km北勢町飯倉(いくら)。
＊前川橋西(右岸)に三角点92,5mがあります。

賀毛神社：員弁郡の一宮。式内社。鳥居は伊勢鳥居形変形。(北勢町垣内718)
祭神：彦坐命(日子坐王)。第九代開化天皇の皇子の一人。母は和邇氏。

相殿：(六所神社)近江治田郷(長浜)から移り住み伊勢治田を開墾した氏祖を祀る。
鴨県主命：山城国から治田郷に移り住んだ鴨県主の祖神。(治田連同族)
治田連命：日子坐王の末裔の一族が治田連の姓を賜った祖先を祀った。
神集殿：七集落の祭神(八百万神)が総宮(そうみや)として合祀されている。
鎮座地：北勢町垣内742。
東海自然歩道三岐鉄道トンネルより、400mコースから外れ南下する。

天正年間「長島一揆」の残党が、当神社別当寺で祭祀を仏式で行う興正寺に立て籠もり、織田信長勢に兵火にかかり、寺、神社とも、尽く灰燼に帰した。近世にはいり桑名藩歴代藩主の庇護を受ける。平成8年再建。

このときの地均しで、石斧、石匙、石棒などが出土、境内地は垣内遺跡として「埋蔵文化財包蔵地」となりました。出土品は神宝として保管された。

【彦坐命（日子坐王）】

崇神天皇の命を受け、丹後の青葉山に棲みつき人々を苦しめる土蜘蛛(先住民を異族視)を山から追い落として討った。(丹後風土記)

開化天皇の第三皇子(母は和邇氏)、神功皇后の高祖父。景行天皇の曾祖父。

崇神天皇の異母弟。生没年不詳。

孫に曙立王(兄):伊勢佐那造の祖。佐那神社(多気大神宮/元伊勢)に祀られる。

兔上王(弟):出雲大社を立てる。福王神社近くの兔上神社に祀られています。

東禅寺 : (東藤原町) 昔この地にあった七堂伽藍の大寺院で、戦国時代戦国時代に兵火により廃寺となったが、寺名が地区名として残っている。

* 近辺の社寺 (東藤原巡見道沿い)

【足下山明源寺】: 浄土真宗本願寺派。元は足山東禅寺(天台宗)。大同3年(808) 伝教大師最澄が建立弟子の正道に譲る。兵火に焼かれ荒廃、その後改宗し本願寺派となる。正保4年(1647)本願寺から寺号「明源寺」を下賜され改称。文政6年(1823)この地の大火で全焼。本堂は嘉永元(1848)の再建。境内に菩提樹の巨木がある。

【藤原山西教寺】: 浄土真宗本願寺派。元は東禅寺の一寺。下野国の僧教円が北勢地方で浄土真宗を広めていたおり、天台宗だった東禅寺がたびかさなる戦火で荒廃していたものを寛正6年(1465)改宗した。本堂は文化11年(1814)の再建。

【御厨神社】: 明治43年(1910)多度神社から天津日子根命を勧請。境内にある「石燈籠」は天保4年(1833)中冬、八天宮と刻まれている。文政6年(1823)の大火で、防火の願いを込めて建てられたという。神社後方畑地一帯は縄文時代の遺跡で縄文土器、石斧、石鏃(矢じり)、石錘(すき)、など出土した東禅寺遺跡。

高台の一角は中世城郭址、東西2.5m南北55m。

* 東藤原駅東、標高120mの高台にあり阿下喜の町を見下ろす。

高台の一角は中世城郭跡。(東西2.5m南北5.5m)

唯照寺 : 貞永宝治(1232~1248)の頃、ここで野尻城が落城しており、城主(輪田氏)の菩提を弔うため出家した家臣黒田源之丞が、良観と号して天台の寺を建立したのがはじまり。文明18年(1468)浄土真宗に改宗した。(藤原町西野尻)寺の前身は黒田氏の居館であったが城館の遺構は何もない。

八幡神社：往古からの神社と伝えられ、応神天皇を主祭神とする。(藤原町西野尻)

誓願寺：大同2年(807)の開山と伝えられ貞永元年(1232)天台宗から浄土真宗に改宗。
梵鐘には当山の沿革が鑄刻されている。(西藤原駅前)

藤原町の城

古田城(砦)：(藤原町古田)説明板、土塁、堀。丘城。近藤義晃。

上平野城かみひらのじょう：(藤原町山口上平野)説明板、曲輪、土塁、空堀。平山城。現山林。

山口城(玉垣城)：(藤原町山口玉垣内)説明板、曲輪、土塁、柵形虎口。現山林。
築城年不明。城主；藤田東馬允

白瀬城：(藤原町本郷)曲輪、土塁、空堀。台城。現山林。

築城；永禄年間(1558~70)。白瀬氏、近藤弾正左衛門吉綱。

川原城：(北勢町川原京ヶ野ゴルフ倶楽部東端林内)平山城、遺構；土塁。

築城年、城主、詳細不明。

万田城：(藤原町坂本)城主：万太丸助。

野尻城：(藤原町西野尻南谷)土塁、空堀、柵形虎口。現山林。

築城：文治年間(1185~90)。城主：輪田右馬允。

石川城：(藤原町石川)斎藤助六。東禅寺の坊官。応永年間(1394~1428)に廃城。

工場造営のため遺構は消滅。

東禅寺城：(藤原町東禅寺)城主：片山平蔵/斎藤助六。天台宗の寺城。

石樽茶いしくわ：伊勢茶の中でも三重県北部山間地帯に位置する石樽で生産されたお茶。

厳しい自然の中で育つため、茶葉に生かされ葉肉が厚く味が良く二煎、三煎、しても香りが変わらない特徴を持っている。霧の発生や土質が大きく影響している。江戸時代初めから自家用に利用していた。

宇治、八女、静岡、狭山茶の原料として他県に出荷される割合は高いという。